

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	教育委員会		
	課名	スポーツ文化課		
	係名	体育係		
	記入者		電話(内線)	613

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	<b>継続</b>	(2) 事務事業 の名称	スポーツライフ推進事業	(3) 事業の 優先度	<b>A</b>		
(4) 総合計画での位置づけ			(6) 事業主体	市			
① 事業の区分	<b>主要事業</b>			(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)	
② 施策コード	43103	(総合計画掲載ページ)	109	会計区分	一般会計		
基本目標(政策)	4 未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文化)					財源区分	市単独
基本施策	3 誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーション活動の推進					予算科目	款 10 項 6 目 1
施策	スポーツ・レクリエーション活動環境の充実					予算書上の 事業名称	北関東中学校野球大会開催事業 (予算書 183 ページに掲載)
施策内容	各種大会の開催					(8) 事務分類	自治事務
(5) 事業期間	開始	昭和 25 年 7 月から		根拠法令			
	終了	年 月まで ( 力年)					

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
茨城県, 栃木県下の中学校野球部	選手間の交流や参加中学校相互の親睦を深めるとともに, 青少年の強健な体力と旺盛な気力を養い, スポーツの発展向上および心身の健全育成と生涯スポーツの振興を図る。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
毎年7月下旬に6日間の会期で, 市内4会場において, 北関東中学校野球大会を開催する。	第2次世界大戦後の復興期に少年たちが少しでもスポーツをする機会を増やす目的から昭和25年に開催された。
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境, 市民ニーズ等) や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応	
少子化により野球部の廃部, 部員不足により出場辞退等参加校が減少しているため, 参加校の見直しを行う必要がある。	

3. 事業コスト

行政評価 実施計画	実績内容の評価	検討・改善	検討・改善内容を反映	
● 予算内訳	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)	
事業内容	26 年度	27 年度	28 年度    29 年度    30 年度	
(1) 事務事業費の コスト	報償費	897	888	
	需用費	954	1,057	
	役務費	28	59	
	委託料	78	78	
	使用料及び賃借料	160	444	
	原材料費	27	64	
	合計	2,144	2,590	
財源	国庫支出金 (千円)			
	県支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
	一般財源 (千円)	2,144	2,590	
合計 (千円)	2,144	2,590		
補助・起債制度名				

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）				単位	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																							
(1) 活動指標（実施した事業の内容）																																																
指標名	試合数	目標値	試合		91	91	91	91																																								
		実績(見込)値		89	87																																											
		目標値																																														
		実績(見込)値																																														
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）																																																
指標名	参加中学校数	目標値	校		92	92	92	92																																								
		実績(見込)値		90	88	92	92	92																																								
		達成率		97.8%	95.7%																																											
	参加人数	目標値	人		1,840	1,840	1,840	1,840																																								
		実績(見込)値		1,800	1,760	1,840	1,840	1,840																																								
		達成率		97.8%	95.7%																																											
5. 事業評価																																																
(1) 平成26年度の行政評価結果をうけて、平成26年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。 プログラムに写真を掲載し、より参加者の記憶に残るよう改善した。																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">評価項目・客観的評価</th> <th>理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>必要性</td> <td>事業の必要性</td> <td>A</td> <td>必要性は高い</td> <td>66回を迎える歴史と伝統のある大会であり、参加選手やその保護者、結城市民も大いに期待する大会に成長しておりこれを未来に継承していかなければならない。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">妥当性</td> <td>実施主体の妥当性</td> <td>A</td> <td>妥当である</td> <td>青少年の健全育成と体力の強化を図ることが目的であり、行政が積極的に関与する事業である。</td> </tr> <tr> <td>手段の妥当性</td> <td>A</td> <td>妥当である</td> <td>現在の手段が一般的である。</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>コスト効率 人員効率</td> <td>A</td> <td>改善の余地はない</td> <td>実行委員会組織が運営され、大会前に実行委員会を開催し、協議を重ねており効率は高まっている。</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>受益者の偏り</td> <td>A</td> <td>偏りは見られない</td> <td>参加中学校はもとより、地域住民にも広く便益を提供している。</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>成果の向上</td> <td>A</td> <td>上がっている</td> <td>参加者相互の交流や健全な心身の発達に寄与しており、成果は上がっている。</td> </tr> <tr> <td>進捗度</td> <td>事業の進捗</td> <td>A</td> <td>順調である</td> <td>近年、参加校数がおおむね定まっており、大会の進行、運営がスムーズに行っている。</td> </tr> </tbody> </table>										評価項目・客観的評価				理由	必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	66回を迎える歴史と伝統のある大会であり、参加選手やその保護者、結城市民も大いに期待する大会に成長しておりこれを未来に継承していかなければならない。	妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	青少年の健全育成と体力の強化を図ることが目的であり、行政が積極的に関与する事業である。	手段の妥当性	A	妥当である	現在の手段が一般的である。	効率性	コスト効率 人員効率	A	改善の余地はない	実行委員会組織が運営され、大会前に実行委員会を開催し、協議を重ねており効率は高まっている。	公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	参加中学校はもとより、地域住民にも広く便益を提供している。	有効性	成果の向上	A	上がっている	参加者相互の交流や健全な心身の発達に寄与しており、成果は上がっている。	進捗度	事業の進捗	A	順調である	近年、参加校数がおおむね定まっており、大会の進行、運営がスムーズに行っている。
評価項目・客観的評価				理由																																												
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	66回を迎える歴史と伝統のある大会であり、参加選手やその保護者、結城市民も大いに期待する大会に成長しておりこれを未来に継承していかなければならない。																																												
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	青少年の健全育成と体力の強化を図ることが目的であり、行政が積極的に関与する事業である。																																												
	手段の妥当性	A	妥当である	現在の手段が一般的である。																																												
効率性	コスト効率 人員効率	A	改善の余地はない	実行委員会組織が運営され、大会前に実行委員会を開催し、協議を重ねており効率は高まっている。																																												
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	参加中学校はもとより、地域住民にも広く便益を提供している。																																												
有効性	成果の向上	A	上がっている	参加者相互の交流や健全な心身の発達に寄与しており、成果は上がっている。																																												
進捗度	事業の進捗	A	順調である	近年、参加校数がおおむね定まっており、大会の進行、運営がスムーズに行っている。																																												
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。 大会を通じて、参加中学校相互の交流と体力増進および健全な心身の発達に寄与するとともに、日頃の練習の成果を発揮する場として、事業の意図は十分に達成されている。また、伝統ある大会のため今後も継続していく。今後も少子化により参加校の減少が考えられるため、参加校の見直しをしていく必要がある。																																																
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？ 開閉会式のスムーズな進行、大会期間中の連絡体制の確立、試合結果のすばやいホームページへの掲載など改善を図る。																																																
6. 事業の方向性判断																																																
評価主体		27年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠																																											
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。																																											
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			大会を通じて参加中学校相互の交流と体力の増進、健全な心身の発達に寄与しており、今後も継続する。																																											
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う					上記評価のとおり。																																											